

3. 今後ニ於ケル對日處理ノ準備ヲ示ス
三、米英ハ本聲明發表前ニ於テ「ソ」聯ニ對シ之ヲ提示セシハ疑問ノ
余地ナカルヘキモ之ニ對スル「ソ」聯ノ態度ハ「ボツダム」會談
ニ關スル發表ニモ鑑ミ不介入主義ヲトリテ今後ニ於ケル自主的行
動ニ支障ナカラシメタルモノト推測セラル

二、說明

一、本說明ハ對日戰ニ結集セラレアル聯合國ノ軍事力ヲ誇示シテ今ヤ
聯合軍ハ日本ニ對シ最終的攻勢ヲ展開スヘキ態勢ニアリトナシ日
本敗北ノ不可避性及日本カ抗戰ヲ繼續スルニ於テハ徹底的破壊ア
ルノミナリトノ點ヲ強調スルト共ニ無條件降伏後ノ日本處理方針
ヲ示シテ繼續ノ無意味ナルコトヲ指摘シアリ
二、本土決戰ヲ目捷ノ間ニ控ヘタル政戰兩略ノ機微ナル現段階ニ於テ
本聲明ノ發出ハ一見比較的寛大ナルカ如キ日本處理方針ヲ發表シ
以テ日本國內ニ於ケル和平氣運醸成ヲ企圖セルモノト云フヘク米

英ハ之ニ依リ日本ノ即時無條件降伏ヲ僥倖シツツモ必スシモ之ヲ
期待スルコトナク寧ロ日本國內ノ團結特ニ軍官民ノ離間ヲ策シタ
ルモノト思考セラル

三、對獨戰終了後米國ハ日本ノ對米妥協和平説ト關聯シ再度ニ直リ對
日無條件降伏方針ヲ修正セサル旨言明シ來レルカ(29/6及ヒ10/7
聲明)米國輿論モ一般的ニ右ヲ支持シ居レリ(別紙第二參照)從
ツテ本聲明ヲ目シテ米國カ對日戰遂行方針ニ動搖ヲ來シ居ルモノ
ト觀察スルハ當ラサルヘシ 唯米國內ニ於テハ無條件降伏ノ内容
ニ關シテハ之ヲ今ヨリ闡明シ以テ平和招來ヲ促進スヘシトノ要望
ハ行ハレ居リタルモノニシテ(「リッブマン」上院議員「ケーブ
ハート」及ヒ「ホワイト」、「ヘラルド」トリビュン「タイ
ム」「ライフ」誌等)本聲明ハ斯カル輿論ノ要望ヲモ考慮セルモ
ノナルヘシ
又本聲明ノ發表ニモ拘ラス日本カ之ヲ肯シザル爲今後ノ作戰ハ